



◆ファントム…「オペラ座の怪人」

観劇前に、配付されたチラシを読んでおきましょう。『オペラ座の怪人』では、登場人物の関係が舞台上で語られません。既に人物の関係を観客は知っている、という前提で話が進みます。

オペラ座の地下に住む怪人は、「ファントム」と呼ばれています。醜い容姿に生まれた彼は人前に姿を現さず、顔を常に仮面（ペルソナ）で覆っています。エリックという名前があるのですが、四季版ではその名前が登場することはありません。ファントムには音楽に対する強い執着と、そして絶対の自信がありました（そして確かに素晴らしい音楽を見出す能力には秀でていました）。そのファントムに見い出され、その姿も正体を知らぬままレッスンを受けて才能を磨かれたのが、クリスティーン・ダーエです。

本来のプリマドンナであったカルロッタが降板し、チャンスをつかんで公演を大成功に導いたクリスティーン。客席からその姿を認めたラウルは、新たなオペラ座のパトロンにしてクリスティーンの幼馴染。公演をきっかけに二人は再開。基本的には、この怪人（ファントム）・クリスティーン・ラウルの3人を軸に話が展開していきます。

見どころは数えるときがありません。筋書き・音楽はもちろんですが、劇団四季としてはかなり豪華な舞台装置。数々の衣装。そして、日本でこれだけ歌える集団を他に探すことが難しいほどの声量。それでいて力押しではない情感豊かな表現。身体能力の高さ。そうした中から、いくつか注意して観てほしいポイントを紹介いたします。

オペラ座の地下に広がる湖を、クリスティーンを載せたゴンドラが進むシーン。漕ぎ手は怪人。スモークに蠟燭が浮かぶ幻想的な場面で、ゴンドラが複雑に揺れながら進む様子は、舞台上の出来事であることを忘れてしまいます。

1幕ラスト、怪人がシャンデリアを落下させるシーン。シャンデリアが本当に落ちてくる衝撃は圧巻です。ところで、落下するシャンデリアに気を取られ、肝心の怪人がどこにいるのか見落とさないようにしましょう。まさかそんなところに！と思う場所に怪人がいます。舞台（演劇）とは、舞台の板の上だけで展開するものではありません。観慣れていない人にとっては、自分が持つ舞台のイメージを乗り越えてくる、強いインパクトがあります。怪人は2階席からの方が見つけやすいですよ。

2幕冒頭、マスカレード（仮面舞踏会）のシーン。この作品で最も絢爛豪華な場面。四季団員の身体能力の高さも見どころです。どこを見ればいいのか迷うくらい、キャストの誰もが、あちこちで色んな動きをしています。

そして2幕ラスト。「あれ？これどうなるの？」と思っているうちに終わってしまいます。ラストは気を抜いていると、“気付いたら終わった…”なんてことになりかねませんので、要注意。ラストシーンが意味するところを、観終わった後に、感想や考えを交換してみてください。いくつかの違った感想が出てくるのではないかと思います。悲しいラストシーンととらえられることもあります。私（高崎）には、どうしてもそのようには思えません。『ノートルダムの鐘』のカジモドや、宝塚歌劇で上演された『ファントム』（同じガストン・ルルーの小説を基にしたもの、アンドリュウ・ロイドウェバー版とは全く違った作品として作られたミュージカル）を参考に考えると、むしろ怪人が愛の昇華を得たラストのように思えます。

みなさんは、怪人の仮面（ペルソナ）が強く印象に残る、かの有名すぎるくらい有名なラストシーンに、どんなことを思うのでしょうか。本当に楽しみです。

さて、物語はオペラ座の出来事を過去のものとして描くオークションの場面から始まります。“その品”に強い思い入れのある老紳士の記憶が鮮やかに呼び起こされるとき、劇場はあつと言う間に、19世紀のパリ・オペラ座に変身します。有名なパイプオルガンの旋律とともに。是非のめりこみ、存分に楽しんでください。

◆大阪四季劇場のおさえどころ

① 劇場へはエスカレーターで。

大阪四季劇場ハービス ENT の7階にあります。地下階や1階からエレベーターもありますが、劇場に向かう人数に対してキャパシティが小さいので、エスカレーターで上がりましょう。エレベーターを待つよりも早いはずですが（帰りは確実に早いです）。

② 時間を気にして動きましょう。

開演前、幕間休憩時は時間を気にして動きましょう。舞台は生もの。幕間休憩の入りの時刻を見ておかないと、どの時点から20分間の休憩なのかが分からなくなります。2幕開始時刻が迫っていても、おしゃべりに熱中していると、2幕に入る雰囲気壊してしまいます。

③切実なるトイレ事情（大事です）。

四季の幕間休憩は短い！さらに、約1200の客席数に対し、1階・2階それぞれのトイレ数が限られているので、幕間中にトイレに行くことを考えている人は、1幕終了後まずはトイレの列へ！トイレは、1階席は客席を出て上手（舞台に向かって右）側に、2階席は下手（舞台に向かって左）側にあります。ロビーでグッズを見てからトイレ…などと悠長な構えでいると、2幕の開始ギリギリになってしまいます。

以上、舞台本編には関係のない話でした。あと、6/28(水)ですが、お昼の時間帯は3年生だけになるため、学校の食堂の営業はありません。昼食をどうするか、あらかじめ考えておいてください。